

# 学科Ⅳ 施工

## Lesson 2 1 塗装工事



□出題頻度 重要度 ★★★

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---

□ポイント

塗装工事の問題は毎年出題されています。暗記が全ての問題ばかりです。頑張って覚えましょう！！

でも、慣れると答えのパターンが見えてきそうですよ。

学科の試験対策は、このパターンをつかむことの積み重ねです。

## □基本事項1 素地と塗料の組み合わせ

## ■オイルステイン

木部の着色に適。 **それ以外の素地には適していない。**

## ■ウレタン樹脂ワニス

木質系部材に対する透明仕上げ。フローリング、しな合板など

## ■クリアラッカー

木部造作などの透明塗装仕上げ

## ■アクリル樹脂エナメル

コンクリートやモルタル面に適。 **木部は不可。**

## ■マスチック塗材

ハンドローラーで凹凸を付ける。ALCパネルなどコンクリートに用いる。

## ■合成樹脂エマルジョンペイント

コンクリートやモルタル、石膏ボードなどに適。木部も可能であるが、 **鉄部には不適。**

## ■塩化ビニル樹脂エナメル

コンクリートやモルタルに適。

## ■合成樹脂調合ペイント

鉄部や亜鉛めっき面の着色に適。 **耐アルカリ性がないのでコンクリート面には不適。**

## ■フタル酸樹脂エナメル

鉄部や亜鉛めっき面に適。木部も可能であるが、 **コンクリートには不適。**

## ■アルミニウムペイント

鉄部や亜鉛めっき面に適。 屋外設備や金属屋根の塗装など。



## □基本事項2 素地調整

### ■木部

汚れや付着物を除去する。 節やその周辺には、セラックニス<sup>®</sup>を2回はけ塗りをする。

### ■コンクリート系

下地の吸い込みが多い場合は、シーラー<sup>®</sup>を塗布する。

### ■鉄部

溶液又は溶剤洗浄<sup>®</sup>で油類を除去する。 錆などはサンドブラスト法<sup>®</sup>で処理する。

### ■亜鉛めっき面

塗膜の付着性をよくする為に、エッチングプライマー<sup>®</sup>を塗布する。

### ■アルミニウム面

酸化被膜処理<sup>®</sup>を行う。

塗装工事は  
塗る前も  
大切なんだよ。



## □基本事項3 工法 及び、塗装における留意点

- ✚ 塗装方法には、はけ塗り、ローラー塗、スプレーの3つの方法がある。  
スプレーでの吹付けは、素地に対して直角に保ち、1回の吹付け幅の1/3を重ねながら吹付ける。
- ✚ 温度が5℃以下、湿度が85%以上の場合は、作業を行わない。
- ✚ 重ね塗りをする場合、下層が十分に乾燥してから行う。(なるべく各層の色を変える。)
- ✚ コンクリート面が、塗装可能になるまでの期間  
夏期 → 3週(21日)以上      冬期 → 4週(28日)以上

精度を確保する為には  
大切なことだよ



## ■練習問題 (過去類似問題)

## (問題 1) 1993 類似問題

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 冬季に、コンクリート面が乾燥して塗装可能となるまで、4 週間養生した。
2. 合成樹脂エマルジョンペイントを、軽量鉄骨面に塗装した。
3. アルミニウム合金素地に塗装を行うので、あらかじめ酸化皮膜処理を行った。
4. フタル酸樹脂ワニス塗りにおいて木部に着色する場合、オイルステインを塗ってからワニスで仕上げた。
5. 塩化ビニル樹脂エナメルを、コンクリート面に塗装した。

## (問題 2) 1994 類似問題

内壁の塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 塩化ビニル樹脂エナメルを、モルタル面に塗装した。
2. 合成樹脂エマルジョンペイントを、コンクリート面に塗装した。
3. 夏期において、コンクリート打込み後 14 日間放置したうえで、その表面に多彩模様塗料を塗装した。
4. 夏期において、塩化ゴム系エナメルは、中塗り後 24 時間放置して、上塗りした。
5. 速乾性のクリヤーラッカーは、湿度の低いときに塗装した。

## (問題 3) 1995 類似問題

室内における塗装に関する素地と塗料との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 一般木部 ————— クリヤーラッカー
2. しな合板 ————— ウレタン樹脂ワニス
3. モルタル ————— 合成樹脂調合ペイント
4. ALC パネル ——— マスチック塗材
5. 鋼板 ————— 塩化ゴム形エナメル

## (問題 4) 1996 類似問題

室内の塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フタル酸樹脂エナメルを、木部に塗装した。
2. 合成樹脂エマルジョンペイントを、鋼板面に塗装した。
3. マスチック塗材を、モルタル面に塗装した。
4. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たり、素地の乾燥期間の目安は、21 日とした。
5. 亜鉛めっき面の現場塗装に先立つ素地ごしらえとして、汚れや油類を除去した後に、エッチングプライマー塗りを行った。

## (問題5) 1997 類似問題

室内における塗装に関する素地と塗料との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. フローリング ————— ウレタン樹脂ワニス
2. 一般木部 ————— マスチック塗材
3. コンクリート ————— 合成樹脂エマルジョンペイント
4. 亜鉛めっき鋼板 ————— 合成樹脂調合ペイント
5. 鋼板 ————— 塩化ゴム形エナメル

## (問題6) 1998 類似問題

室内における塗装に関する素地と塗料との組合せとして、通常使用しないものは、次のうちどれか。

1. 一般木部 ————— ウレタン樹脂ワニス
2. ALC パネル ————— マスチック塗材
3. モルタル ————— 塩化ビニル樹脂エナメル
4. コンクリート ————— 合成樹脂調合ペイント
5. 亜鉛メッキ鋼板 ————— フタル酸樹脂エナメル

## (問題7) 1999 類似問題

室内における塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 亜鉛めっき鋼板面に、合成樹脂調合ペイントを塗装した。
2. 鋼板面に、フタル酸樹脂エナメルを塗装した。
3. 木部に、油性ステインを塗装した。
4. 木部の素地ごしらえにおいて、節止めとして、節及びその周辺にセラックニス を 2 回はけ塗りした。
5. 鋼板面の素地ごしらえにおいて、油類の除去をサンドブラスト法により行った。

## (問題8) 2000 類似問題

室内における塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. モルタル面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
2. 木部は、ウレタン樹脂ワニス塗りとした。
3. 鋼板面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
4. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。
5. 鋼板面の素地ごしらえにおいて、溶剤洗浄により機械油を除去した。

## (問題 9) 2001 類似問題

室内における塗装に関する素地と塗料との組合せとして、通常使用しないものは次のうちどれか。

1. 一般木部ーオイルステイン
2. モルタルー塩化ビニル樹脂エナメル
3. コンクリートーマスチック塗材
4. ALC パネルーウレタン樹脂ワニス
5. 亜鉛めっき鋼板ーフタル酸樹脂エナメル

## (問題 10) 2002 類似問題

室内における塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木部は、油性ステイン塗りとした。
2. 亜鉛めっき鋼板面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
3. モルタル面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
4. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。
5. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たり、素地の乾燥期間の目安は、21 日とした。

## (問題 11) 2003 類似問題

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 鉄鋼面の素地ごしらえにおいて、溶剤ぶきにより油類を除去した。
2. 塗装場所の気温が 10℃、湿度が 80%で、換気も適切であったので、そのまま塗装を行った。
3. 木部は、アクリル樹脂エナメル塗りとした。
4. 亜鉛めっき鋼面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
5. モルタル面は、塩化ビニル樹脂エナメル塗りとした。

## (問題 12) 2004 類似問題

室内の塗装において、素地と通常使用する塗料との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 木部 …………… オイルステイン
2. モルタル …………… 塩化ビニル樹脂エナメル
3. 鉄部 …………… 合成樹脂エマルジョンペイント
4. コンクリート …………… アクリル樹脂エナメル
5. せっこうボード …………… 合成樹脂エマルジョン模様塗料

## (問題 13) 2005 類似問題

室内の塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たって、素地の乾燥期間の目安を3週間とした。
2. モルタル面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。
3. シーリング面の塗装仕上げにおいて、シーリング材の乾燥を防止するために、シーリング材を充填した後、直ちに塗装を行った。
4. せっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。
5. 手摺等の木部は、ウレタン樹脂ワニス塗りとした。

## (問題 14) 2006 類似問題

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木部を透明塗装する際の素地調整については、汚れ・付着物を除去した後、研磨を行った。
2. 屋内のコンクリート面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。
3. 屋内のせっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。
4. 冬期における屋内のコンクリート面への塗装に当たって、素地調整後の乾燥期間の目安を、14日間とした。
5. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地に対して直角に保ち、1回ごとの吹付け幅の約1/3を重ねながら吹き付けた。

## (問題 15) 2007 類似問題

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート壁面へのマスチック塗材塗りに当たって、気温が5℃を下回ったので、塗装作業に着手しなかった。
2. 外壁のモルタル面は、アクリル樹脂エナメル塗りとした。
3. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地に対して直角に保ち、1回ごとの吹付け幅が重ならないように吹き付けた。
4. 内壁における塗料の塗り重ねにおいて、各層ごとに塗料の色を変えた。
5. 室内の木部は、オイルステイン塗りとした。

## ■練習問題 解答編

(問題 1) 1993 類似問題

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 冬季に、コンクリート面が乾燥して塗装可能となるまで、4 週間養生した。
2. 合成樹脂エマルジョンペイントを、軽量鉄骨面に塗装した。
3. アルミニウム合金素地に塗装を行うので、あらかじめ酸化皮膜処理を行った。
4. フタル酸樹脂ワニス塗りにおいて木部に着色する場合、オイルステインを塗ってからワニスで仕上げた。
5. 塩化ビニル樹脂エナメルを、室内の木部に塗装した。

**正解 2**

**2. 合成樹脂エマルジョンペイントは、コンクリート、モルタル面には適しているが、金属面には使用できません。**

(問題 2) 1994 類似問題

内壁の塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 塩化ビニル樹脂エナメルを、耐水性の必要な鋼板面に塗装した。
2. 合成樹脂エマルジョンペイントを、コンクリート面に塗装した。
3. 夏期において、コンクリート打込み後 14 日間放置したうえで、その表面に多彩模様塗料を塗装した。
4. 夏期において、塩化ゴム系エナメルは、中塗り後 24 時間放置して、上塗りした。
5. 速乾性のクリヤーラッカーは、湿度の低いときに塗装した。

**正解 3**

**3. コンクリートやモルタル面は初期の含水率が高く、アルカリ性でもあり、塗膜の付着と硬化を妨げるためコンクリートで 21～28 日間、モルタル面でも 14～21 日間は放置します。**

(問題 3) 1995 類似問題

室内における塗装に関する素地と塗料との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 一般木部 ————— クリヤーラッカー
2. しな合板 ————— ウレタン樹脂ワニス
3. モルタル ————— 合成樹脂調合ペイント
4. ALC パネル ———— マスチック塗材
5. 鋼板 ————— 塩化ゴム形エナメル

**正解 3**

**3. 合成樹脂調合ペイントは、木部・鉄部・亜鉛めっき面に適していますが、コンクリートやモルタル面には適していません。**



## (問題 4) 1996 類似問題

室内の塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フタル酸樹脂エナメルを、木部に塗装した。
2. 合成樹脂エマルジョンペイントを、鋼板面に塗装した。
3. マスチック塗材を、モルタル面に塗装した。
4. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たり、素地の乾燥期間の目安は、21 日とした。
5. 亜鉛めっき面の現場塗装に先立つ素地ごしらえとして、汚れや油類を除去した後に、エッチングプライマー塗りを行った。

## 正解 2

**2. 合成樹脂エマルジョンペイントは、耐アルカリ性が高いため、コンクリートやモルタル面には適していますが、耐酸性が低いため、金属面には適していません。**

## (問題 5) 1997 類似問題

室内における塗装に関する素地と塗料との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. フローリング ————— ウレタン樹脂ワニス
2. 一般木部 ————— マスチック塗材
3. コンクリート ————— 合成樹脂エマルジョンペイント
4. 亜鉛めっき鋼板 ————— 合成樹脂調合ペイント
5. 鋼板 ————— 塩化ゴム形エナメル

## 正解 2

**2. マスチック塗材は、ハンドローラーを用いて凹凸仕上げをする塗材で、下地が、コンクリート、モルタル、プラスター又は ALC パネルなどに適用します。**

## (問題 6) 1998 類似問題

室内における塗装に関する素地と塗料との組合せとして、通常使用しないものは、次のうちどれか。

1. 一般木部 ————— ウレタン樹脂ワニス
2. ALC パネル ————— マスチック塗材
3. モルタル ————— 塩化ビニル樹脂エナメル
4. コンクリート ————— 合成樹脂調合ペイント
5. 亜鉛メッキ鋼板 ————— フタル酸樹脂エナメル

## 正解 4

**4. 合成樹脂調合ペイントは、木部や鉄鋼、亜鉛メッキ面の塗装に適しているが、耐アルカリ性が低いため、コンクリート・モルタル面には適していません。**

## (問題7) 1999 類似問題

室内における塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 亜鉛めっき鋼板面に、合成樹脂調合ペイントを塗装した。
2. 鋼板面に、フタル酸樹脂エナメルを塗装した。
3. 木部に、油性ステインを塗装した。
4. 木部の素地ごしらえにおいて、節止めとして、節及びその周辺にセラックニスで2回はけ塗りした。
5. 鋼板面の素地ごしらえにおいて、油類の除去をサンドブラスト法により行った。

**正解 5**

**5. 鉄面の素地ごしらえにおいて、油類の除去は、溶液または溶剤洗浄とします。**

**サンドブラスト法は、鋼板面の錆の除去を目的とした工法です。**

## (問題8) 2000 類似問題

室内における塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. モルタル面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
2. 木部は、ウレタン樹脂ワニス塗りとした。
3. 鋼板面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
4. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。
5. 鋼板面の素地ごしらえにおいて、溶剤洗浄により機械油を除去した。

**正解 1**

**1. 合成樹脂調合ペイントは、塗膜の耐アルカリ性が劣るため、コンクリート、モルタル、ボード類等の素地には適用できません。木部や鉄鋼面に適応しています。**

## (問題9) 2001 類似問題

室内における塗装に関する素地と塗料との組合せとして、通常使用しないものは次のうちどれか。

1. 一般木部—オイルステイン
2. モルタル—塩化ビニル樹脂エナメル
3. コンクリート—マスチック塗材
4. ALC パネル—ウレタン樹脂ワニス
5. 亜鉛めっき鋼板—フタル酸樹脂エナメル

**正解 4**

**4. ウレタン樹脂ワニス塗りは木部に適しています。**

**なお、ALC パネル下地には、マスチック塗材塗りが適しています。**

## (問題 10) 2002 類似問題

室内における塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木部は、油性ステイン塗りとした。
2. 亜鉛めっき鋼板面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
3. モルタル面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
4. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。
5. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たり、素地の乾燥期間の目安は、21 日とした。

**正解 3**

**3. フタル酸樹脂エナメル塗りは屋内の木部、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面に適しています。モルタル面やコンクリート面には、耐アルカリ性が低いため適しません。**

## (問題 11) 2003 類似問題

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 鉄鋼面の素地ごしらえにおいて、溶剤ぶきにより油類を除去した。
2. 塗装場所の気温が 10℃、湿度が 80%で、換気も適切であったので、そのまま塗装を行った。
3. 木部は、アクリル樹脂エナメル塗りとした。
4. 亜鉛めっき鋼面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
5. モルタル面は、塩化ビニル樹脂エナメル塗りとした。

**正解 3**

**3. アクリル樹脂エナメル塗りは、屋外のコンクリートやモルタル面に使われます。したがって、不適当。**

## (問題 12) 2004 類似問題

室内の塗装において、素地と通常使用する塗料との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 木部 …………… オイルステイン
2. モルタル …………… 塩化ビニル樹脂エナメル
3. 鉄部 …………… 合成樹脂エマルジョンペイント
4. コンクリート …………… アクリル樹脂エナメル
5. せっこうボード …………… 合成樹脂エマルジョン模様塗料

**正解 3**

**3. 合成樹脂エマルジョンペイントは、コンクリート、モルタル、プラスター、せっこうボード、その他のボード等の面に使用します。金属面には使用できません。**

## (問題 13) 2005 類似問題

室内の塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 夏期におけるコンクリート面への塗装に当たって、素地の乾燥期間の目安を3週間とした。
2. モルタル面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。
3. シーリング面の塗装仕上げにおいて、シーリング材の乾燥を防止するために、シーリング材を充填した後、直ちに塗装を行った。
4. せっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。
5. 手摺等の木部は、ウレタン樹脂ワニス塗りとした。

**正解 3**

**3. シーリング面に塗装仕上げを行う場合は、シーリング材が硬化したのちに行います。**

**シーリング材充填直後の未硬化状態での塗装は、シーリング材を損傷・汚損してしまう恐れがあります。**

## (問題 14) 2006 類似問題

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木部を透明塗装する際の素地調整については、汚れ・付着物を除去した後、研磨を行った。
2. 屋内のコンクリート面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りとした。
3. 屋内のせっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。
4. 冬期における屋内のコンクリート面への塗装に当たって、素地調整後の乾燥期間の目安を、14日間とした。
5. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地に対して直角に保ち、1回ごとの吹付け幅の約1/3を重ねながら吹き付けた。

**正解 4**

**4. コンクリート面の塗装において、素地の乾燥期間の目安は、夏期 21日・春秋期 21～28日・冬期 28日です。**

## (問題 15) 2007 類似問題

塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート壁面へのマスチック塗材塗りに当たって、気温が5℃を下回ったので、塗装作業に着手しなかった。
2. 外壁のモルタル面は、アクリル樹脂エナメル塗りとした。
3. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地に対して直角に保ち、1回ごとの吹付け幅が重ならないように吹き付けた。
4. 内壁における塗料の塗り重ねにおいて、各層ごとに塗料の色を変えた。
5. 室内の木部は、オイルステイン塗りとした。

**正解 3**

**3. スプレーガンは、1行ごとの吹付け幅が約1/3ずつ重なるように運行します。従って、不適当。**

## ■正誤問題

過去に出題された問題の選択肢を抜き出した問題です。○×で回答して下さい。

単に線で結ばれているものは、素地と塗装の組み合わせが適切かどうかを判断して下さい。

1. 木部を透明塗装する際の素地調整については、汚れ・付着物を除去した後、研磨を行った。
2. 屋内のせっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。
3. 冬期における屋内のコンクリート面への塗装に当たって、素地調整後の乾燥期間の目安を、14日間とした。
4. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンを素地面に対して、直角に向け平行に動かし、1行ごとの吹付け幅の約1/3を重ねながら吹き付けた。
5. 屋内の木部は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
6. 夏期における屋内のコンクリート面への塗装において、素地調整後のコンクリート面の乾燥期間を、7日間とした。
7. モルタル面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
8. 鋼板面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。
9. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。
10. 鉄部 …………… 合成樹脂エマルジョンペイント

## ■正誤問題 解答編

1. 木部を透明塗装する際の素地調整については、汚れ・付着物を除去した後、研磨を行った。

1. ○ **正しい記述です。**

2. 屋内のせっこうボード面は、合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りとした。

2. ○ **正しい記述です。**

3. 冬期における屋内のコンクリート面への塗装に当たって、素地調整後の乾燥期間の目安を、14日間とした。

3. × **コンクリート面の塗装において、素地の乾燥期間の目安は、夏期 21 日以上・春秋期 21～28 日・冬期 28 日以上です。したがって、不適當。**

4. 外壁の吹付け塗装において、スプレーガンが素地に対して、直角に向け平行に動かし、1行ごとの吹付け幅の約 1/3 を重ねながら吹き付けた。

4. ○ **正しい記述です。**

5. 屋内の木部は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。

5. ○ **正しい記述です。**

6. 夏期における屋内のコンクリート面への塗装において、素地調整後のコンクリート面の乾燥期間を、7日間とした。

6. × **コンクリートにおける素地の乾燥期間の目安は、夏期 21 日以上、春・秋期 21～28 日以上、冬期 28 日以上です。従って、不適當。**

7. モルタル面は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。

7. × **合成樹脂調合ペイントは、塗膜の耐アルカリ性が劣るため、コンクリート、モルタル、ボード類等の素地には適していません。木部や鉄鋼面に適しています。**

8. 鋼板面は、フタル酸樹脂エナメル塗りとした。

8. ○ **正しい記述です。**

9. 塗装を行うに当たって、中塗り及び上塗りは、各層の色を変えて塗装した。

9. ○ **正しい記述です。**

10. 鉄部 …………… 合成樹脂エマルジョンペイント

10. × **合成樹脂エマルジョンペイントは、コンクリート、モルタル、プaster、せっこうボード等の面に適しています。金属面には使用できません。**